

令和7年度 まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

| | | |
|--------|---|--------------|
| 開催日時 | 令和7年10月16日（木） | 9時30分～10時30分 |
| 開催場所 | 半田市役所 大会議室 | |
| 会議次第 | 【議題】 基本目標2「市内外から人々が集い活発な交流のある『まち』をつくる」 ①所管課長説明 ②質疑 ③評価 | |
| 出席委員 | （委員長）鈴木委員長 （委員）中村委員、福井委員、河治委員、松山委員、林委員、岩橋委員、福田委員、山本委員 | |
| 事務局 | 企画課長、企画課（斎藤・中村） | |
| 出席職員 | 観光課長、スポーツ課長 | |
| 議事概要 | | |
| ①所管課説明 | 資料及び事前質問回答に基づき、説明（観光課長） | |
| ②質疑 | 【委員】 数値目標「観光入込客数」は回復傾向にあり、令和6年度も前年度比で伸びている。これにはどのような要因があるのか。 【観光課長】 施設ごとの観光入込客数としては、ミツカンミュージアム、半田赤レンガ建物、ごんぎつねの湯、市立博物館が伸びている。 いずれの施設もリニューアルや特色のある企画展の開催等、創意工夫のある取組を行うことにより誘客につなげている。さらに、観光需要自体が回復している中で、令和6、7年度には醸造・発酵をテーマとした観光プロモーションやイベントを実施しており、これが誘客の増加に寄与している。 【委員】 KPI「半田赤レンガ建物来館者数」に関連して、半田赤レンガ建物の指定管理者の状況や取組内容はどのようなものか。 【観光課長】 半田赤レンガ建物について、令和6年度までは（株）トヨタエンタープライズ、令和7年度からは半田市観光協会に指定管理を委託している。コロナ期間中（令和2・3年度あたり）は、観光需要の低下により来館者数も大幅に減少したが、その後は若年層の誘客や切り絵展を始めとした集客力のある企画展の誘致等を行ったことにより、来館者数を回復できた。 令和7年度の現段階では、観光需要全体の高まりとともに来館者数も順調である。今後は、より魅力的な企画展の検討や観光協会の強みである地元のネットワークを活かした展開を図っていきたい。 | |

【委員】

KPI「店舗での尾州早すし提供数」は、提供店舗数の減少により低下している。醸造・発酵をテーマとした観光誘客を進めていく中で、尾州早すしの他にどのような食品でPRできると考えられるか。

【観光課長】

仕込みの手間等の理由により、尾州早すしの提供店舗数は現在1店舗のみとなっている。早すしに類似するものとして、半田運河周辺にある店舗（回転鮎魚太郎半田店）では、赤酢を使用した握りずしを提供するなどの変化はみられる。尾州早すしについては、このように何らか形を変えながら展開していきたい。

醸造・発酵については、愛知県の「愛知『発酵食文化』振興協議会」において、東南アジアを始めとした海外向けのプロモーションの方法や、打ち出し方の検討を進めている。

本市では、令和7年度に市内の発酵食等を取り扱う店舗をマップとしてまとめてPRしている。また、市内の洋菓子店が醸造メーカーと連携して商品開発を行うといった動きも出てきている。こうした状況をふまえて、醸造・発酵関連の商品開発に取り組みたい事業者に対してフードコーディネーターを紹介する等の支援を今後進めていく。

【委員】

半田市新総合体育館の建設について、進捗や概要を知りたい。

【スポーツ課長】

令和6年度に新総合体育館の施設規模や施設機能等のコンセプトをまとめた基本構想を策定した。現在は、次の段階として、より具体的な基本計画を策定中である。建設予定地は、半田びよログスポーツパーク敷地内の北側であり、規模は延べ床面積9000㎡程度となる見込みである。

現在、PFIの導入も含めて事業手法を検討中であり、民間事業者の提案内容によって条件が異なるが、メインアリーナとサブアリーナを設ける予定であり、1400席程度の収容規模の体育館となる見込みである。また、供用開始時期は令和13～14年度頃となる見込みである。

【委員】

新総合体育館では、興行的なイベントを行うのか。

【スポーツ課長】

新総合体育館の設置目的として、市民が日常的に利用できることが第一であり、頻繁にイベント等を行うことにより市民の利用が妨げられることは望ましくない。その前提の上で、どれくらいのイベントを実施できるかは、体育館の運営と維持管理を担うことになる民間事業者の提案内容をふまえて検討していく。

【委員】

スポーツチームのホームスタジアムとして誘致する可能性はあるか。

【スポーツ課長】

市民の日常的な施設利用を妨げになりうるため、現状では、今回の建設をきっかけとしてのスポーツチームの誘致は考えていない。

【委員】

「愛知『発酵食文化』振興協議会」はどのような組織で、何を行っているのか。また、それに関連して、「体験プログラムとツアーの造成を行った」とあるが、体験型のプログラムとは具体的にはどのようなものか。

【観光課長】

「愛知『発酵食文化』振興協議会」は、愛知県が主導している組織で、有識者や自治体等で構成されている。醸造・発酵をテーマとして、愛知県全体で全国や海外に向けて強くPRを行っているという趣旨のもと、令和6年5月に協議会が発足した。

愛知県は古くから醸造業が盛んであり、知多地域や本市においても酒や酢、味噌、たまり等の調味料の生産が今でも続いている。そういった経緯もあり、本市も協議会の幹事市として参画している。

これに関連して、本市では、令和6年度に醸造・発酵をテーマとしたモニターツアーを開催した。その中で、本市の受入体制の検証や体験型のプログラムの磨き上げを行った。ツアー参加者が単に施設を見て回るのではなく、醸造・発酵の食品を実際に食べて、生産者・事業者の話や醸造・発酵にまつわる歴史的背景を聞き、醸造の作業工程を見たり、場合によっては作業を体験したりできるようなツアーを鉄道事業者や周辺自治体の協力を得ながら進めている。また、お酢の飲み比べをしながらその解説を受けてお酢や醸造・発酵への理解を深めるといった体験会も行っている。

【委員】

KPI「レンタサイクルの利用回数」に関連して、レンタサイクルはビジネス目的での利用が多いとのことだが、設置場所はどのように選定しているのか。

【観光課長】

レンタサイクルは半田市観光協会が実施している事業である。レンタサイクルの現在の設置場所は、半田赤レンガ建物とアイプラザ半田の2か所である。利用状況は、やはりビジネス目的での来街者が利用していることが多いと聞いている。観光施策におけるレンタサイクルの活用については、改めて整理する段階にあるが、電動自転車等の他の交通手段であっても費用対効果として導入にいたるほどの利用件数は見込めず、代替案としても難しい。

ただし、中心市街地活性化（名鉄知多半田駅～JR 半田駅～半田運河周辺）にあたっては、移動手段の確保が今後の課題として上がってくる可能性がある。レンタサイクルの整理、検討にあたっては、そちらの展開もふまえて調整を進めていきたい。

【委員】

基本目標２の観光分野での指標は、観光消費額ではなく観光入込客数等の人数で指標を設定している。目指す方向性として、客数が増えるとそれに比例して消費額も増加するという理解でよいか。

【観光課長】

総合戦略は地域経済の活性化も目的としているので、消費額の増加を目指しているとの認識で相違ない。市内の飲食店や民間施設の消費額を把握できるとよいが、売上額はなかなかご回答いただけないため、消費額を指標には設定できていない。愛知県が全県の観光消費額を調査して公表しているが、数年前の調査結果であり、また、半田市のみの消費額は算出できておらず、こちらも進捗管理のための指標には設定しにくい。

見聞きした印象としては、最近では消費単価も上がっており、消費額も増えていると感じられる。市内のマルシェ等の観光イベントへの出店者の動向を見るに、出店枠に対してこれまでは１．５倍程度の出店申込があったが、令和６年度は３倍程度まで増加している。数日間の短期イベントではあるが、本市での出店に高い収益性があると評価いただけており、各イベントが消費額の増加にもつながっていると考えられる。

【委員】

様々な側面から観光客の受入環境を整備することが誘客につながっていくという理解でよいか。

【観光課長】

観光分野に限定されるものではないが、市内事業者・飲食店の増加や常滑市と半田市の東西交通の整備、各種施設における多言語対応等の環境整備等は観光誘客にもつながるものである。

例えば、多言語対応では、日英対応のみの鉄道事業者もあれば、東南アジアや台湾を誘客のターゲットとして中国語の繁体字等を優先的に整備している鉄道事業者もいる。また、昨今では、スマートフォン等の翻訳機能で意思疎通や言語理解が容易となったため、飲食店が必ずしも多言語対応したメニュー等を用意しなくてもよい状況になりつつある。こうした現状をふまえて、観光視点から多言語対応すべき施設や言語を検討している。

【委員】

半田市には商業、農業、工業の専門科高校があり、愛知県内をみてもこれほど高校が揃っている自治体はあまりない。観光をテーマとして、これらの高校が関わることは可能か。

【観光課長】

観光振興にあたっては、そこで暮らす市民自身がまちの文化と魅力を理解し、まちに誇りを持てるようにしていくことも重要である。まちの文化や歴史を伝えるという点では、観光には教育的な側面があり、地元の高校生が関わる余地もあると考えられる。

| | |
|-----|--|
| | <p>また、これまでの取組として、半田商業高校とは商品開発や市内店舗のプロモーションビデオの作成等で本市と連携したこともある。高校生がまちの魅力の PR に取り組む中で自身の能力向上やキャリア形成に役立ててもらいたい。</p> <p>【委員】 リピーターを増やしていくことについては、どのように考えているか。</p> <p>【観光課長】 全国的にはオーバーツーリズムの問題が取り上げられているが、本市では現状としてそういった問題は起きていない。 リピーターを増やすにあたっては、消費単価が高い方たちをターゲットとして、高付加価値な体験型の観光等で魅力を高めていくことも必要であると考えている。東京や京都を始めとした主要な観光地は行き尽くしたので、あまり聞いたことのないまちに行きたいという観光需要もあると聞いている。そうした方々に対して、観光協会や旅行事業者等と連携しながら観光 PR やリピーター増加につながる取組を進めていきたい。</p> <p>【委員】 「どこでもスポーツ推進事業」について、どのようなスポーツイベントをどこで行っているか、行う予定があるか。</p> <p>【スポーツ課長】 令和7年度には、半田運河周辺でのプロギングイベントやはんだふれあい産業まつりでのフラックライン体験会を行う予定である。いわゆるニュースポーツを含めて、市内外の方が気軽にスポーツに親しめる機会をつくっていきたい。</p> |
| ③評価 | <p>【委員】 A評価。 様々な取組に対して一定の成果が出ている。</p> <p>【委員】 A評価。 観光入込客数が順調に伸ばせている。観光施設への2次交通の改善については今後の検討を要する。</p> <p>【委員】 B評価。 指標全体としては伸びているが、レンタサイクル等の個別の指標は達成がないものもある。</p> <p>【委員】 A評価。</p> |

個別の指標について達成できていないものもあるが、醸造・発酵をテーマとした取組の方向性を打ち出せており評価できる。

【委員】

B評価。

観光プロモーション等の取組により観光入込客数が伸びていることは評価できる。一方で、個別の指標が達成できていないものもある。

【委員】

A評価。

醸造・発酵をテーマとするなど、方向性を明確にして取組が進められており、観光入込客数の伸びにつながっていることは評価できる。

【委員】

A評価。

観光入込客数も伸びている。また、消費単価も上がっていると考えられる。

【委員】

A評価。

醸造・発酵を観光のテーマとすることで、取組の方向性を明確化できた。

【委員】

B評価。

指標全体としては伸びているが、個別の指標は達成がないものもある。それぞれの未達成の要因は把握できているので、それらをふまえて今後の改善につなげられるとよい。

全体としての評価は、A評価。